

稲垣良典先生略年譜・主要業績一覧

略年譜

- 昭和 3 (1928) 年 11 月 27 日 佐賀県小城市 (当時：小城郡牛津町) 生まれ
- 昭和 26 (1951) 年 3 月 東京大学文学部哲学科卒業
4 月 南山大学助手
- 昭和 28 (1953) 年 10 月 アメリカ・カトリック大学より M. A 取得
- 昭和 30 (1955) 年 6 月 アメリカ・カトリック大学大学院修了
アメリカ・カトリック大学より Ph. D 取得
9 月 南山大学講師
- 昭和 33 (1958) 年 10 月 南山大学助教授
- 昭和 37 (1962) 年 12 月 ミズーリ州立大学客員教授 (1 ヶ月)
- 昭和 43 (1968) 年 2 月 ペンシルバニア州キングス・カレッジ客員教授 (1 学期)
4 月 南山大学教授
- 昭和 45 (1970) 年 4 月 南山大学文学部長
- 昭和 47 (1972) 年 4 月 九州大学文学部教授
- 昭和 51 (1976) 年 国際中世哲学会理事
10 月 ボン大学客員教授 (1 学期)
- 昭和 57 (1982) 年 2 月 東京大学より文学博士学位取得
7 月 九州大学文学部長, 九州大学大学院文学研究科長

- 昭和 59 (1984) 年 10 月 プリンストン高等研究所研究員 (1 年間)
- 昭和 60 (1985) 年 西日本哲学会会長 (当時役名: 委員長)
- 昭和 62 (1987) 年 ローマ教皇庁立聖トマス学士院会員
中世哲学会会長 (当時役名: 委員長)
- 平成 4 (1992) 年 3 月 九州大学 定年により退職
4 月 福岡女学院大学教授
5 月 九州大学名誉教授
- 平成 7 (1995) 年 4 月 長崎純心大学教授, 長崎純心大学副学長, 長崎純心大学キリスト教文化研究所所長
- 平成 9 (1997) 年 西日本文化賞 学術部門
- 平成 10 (1998) 年 4 月 長崎純心大学大学院人間文化研究科教授, 長崎純心大学大学院人間文化研究科長
- 平成 20 (2008) 年 瑞宝中綬章
- 平成 25 (2013) 年 第 67 回 毎日出版文化賞
- 平成 27 (2015) 年 第 27 回 和辻哲郎文化賞・学術部門
- 令和 4 (2022) 年 1 月 15 日 福岡県宗像市にて逝去 (享年 93 歳)

主要業績一覧

著 書

The Constitution of Japan and the Natural Law, The Catholic University of America Press, 1955

- 『トマス・アキナスの共通善思想——人格と社会』有斐閣, 昭和 36 (1961) 年
- 『論理学入門——伝統的論理学の立場から』明玄書房, 昭和 39 (1964) 年
- 『トマス・アキナス哲学の研究』創文社, 昭和 45 (1970) 年
- 『現代カトリシズムの思想』岩波書店〈岩波新書〉, 昭和 46 (1971) 年
- 『法的正義の理論』成文堂, 昭和 47 (1972) 年
- 『平和の哲学』第三文明社〈レグルス文庫〉, 昭和 48 (1973) 年
- 『トマス・アキナス』(思想学説全書), 勁草書房, 昭和 54 (1979) 年
- 『トマス・アキナス』(人類の知的遺産), 講談社, 昭和 54 (1979) 年
(同一書名で文庫化) 講談社学術文庫, 令和 1 (2019) 年
- 『信仰と理性』第三文明社〈レグルス文庫〉, 昭和 54 (1979) 年
- 『習慣の哲学』創文社, 昭和 56 (1981) 年

- 『聖書のなかの人間』あかし書房，昭和 56（1981）年
 『恵みの時』創文社，昭和 63（1988）年
 『抽象と直観——中世後期認識理論の研究』創文社，平成 2（1990）年
 『トマス＝アクィナス』（センチュリーブックス 人と思想），清水書院，平成 4（1992）年
 『天使論序説』講談社〈講談社学術文庫〉，平成 8（1996）年
 『トマス・アクィナス倫理学の研究』（長崎純心大学学術叢書），九州大学出版会，平成 9（1997）年
 『神学的言語の研究』創文社，平成 12（2000）年
 『問題としての神——経験・存在・神』（長崎純心レクチャーズ），創文社，平成 14（2002）年
 『人間文化基礎論』（長崎純心大学学術叢書），九州大学出版会，平成 15（2003）年
 『講義・経験主義と経験』知泉書館，平成 20（2008）年
 『トマス・アクィナス「神学大全」』講談社〈講談社選書メチエ〉，平成 21（2009）年
 （同一書名で文庫化）講談社〈講談社学術文庫〉，令和 1（2019）年
 『人格《ペルソナ》の哲学』創文社，平成 21（2009）年
 （同一書名で文庫化）講談社〈講談社学術文庫〉，令和 4（2022）年
 『トマス・アクィナスの神学』創文社，平成 25（2013）年
 『トマス・アクィナス「存在」の形而上学』春秋社，平成 25（2013）年
 『トマス・アクィナスの知恵』知泉書館，平成 27（2015）年
 『カトリック入門 日本文化からのアプローチ』筑摩書房〈ちくま新書〉，平成 28（2016）年
 『神とは何か 哲学としてのキリスト教』講談社〈講談社現代新書〉，平成 31（2019）年

翻訳（抄）

- トマス・アクィナス『神学大全』創文社，
 第 11 冊（第 2-1 部 49-70 問），昭和 55（1980）年
 第 12 冊（第 2-1 部 71-89 問），平成 10（1998）年
 第 13 冊（第 2-1 部 90-105 問），昭和 52（1977）年
 第 14 冊（第 2-1 部 106-114 問），平成 1（1989）年
 第 15 冊（第 2-2 部 1-16 問），昭和 57（1982）年
 第 16 冊（第 2-2 部 17-33 問），昭和 62（1987）年
 第 18 冊（第 2-2 部 57-79 問），昭和 60（1985）年
 第 19 冊（第 2-2 部 80-100 問），平成 3（1991）年
 第 20 冊（第 2-2 部 101-122 問），平成 6（1994）年
 第 23 冊（第 2-2 部 171-182 問）共訳，平成 13（2001）年

- 第 29・30・31 冊（第 3 部 16-26 問），平成 22（2010）年
第 32 冊（第 3 部 27-30 問），平成 19（2007）年
第 33・34 冊（第 3 部 31-37 問），平成 20（2008）年
第 35・36 冊（第 3 部 38-45 問），平成 21（2009）年
第 37・38 冊（第 3 部 46-52 問），平成 23（2011）年
第 39・40 冊（第 3 部 53-59 問），平成 24（2012）年
第 41 冊（第 3 部 60-65 問），平成 14（2002）年
第 42 冊（第 3 部 66-72 問），平成 15（2003）年
第 43 冊（第 3 部 73-78 問），平成 17（2005）年
第 44 冊（第 3 部 79-83 問），平成 17（2005）年
第 45 冊（第 3 部 84-90 問），平成 19（2007）年
- ジャック・マリタン『聖トーマスと悪の問題』ヴェリタス書院，昭和 32（1957）年
- エティエンヌ・ジルソン『哲学史と哲学教育』ヴェリタス書院，昭和 32（1957）年
- トーマス・アクィナス『法について』有斐閣，昭和 33（1958）年
- E・ドリオンほか『古代オリエントの宗教』ドン・ボスコ社，昭和 34（1959）年
- レジス・ジョリヴェー『哲学者と知者の神』ドン・ボスコ社，昭和 35（1960）年
- ヨゼフ・ピーパー『余暇——文化の基礎』エンデルレ書店，昭和 36（1961）年
（文庫化）『余暇と祝祭』講談社〈講談社学術文庫〉，昭和 63（1988）年
- フランク・J・シード『万人のための神学——カトリック入門』中央出版社，昭和 36（1961）年
- F・コプルストン『トマス・アクィナス』未来社，昭和 37（1962）年
- R・E・ブレナン『人間の研究——トマスの心理学入門』ヴェリタス書院，昭和 37（1962）年
- ヨゼフ・ピーパー『哲学するとはどういうことか』エンデルレ書店，昭和 37（1962）年
- J・M・ヒルシュベルガー『小哲学史』エンデルレ書店，昭和 39（1964）年
- ヨゼフ・ピーパー『大学とは何か』エンデルレ書店，昭和 41（1966）年
- L・L・フラー『法と道徳』有斐閣，昭和 43（1968）年
- T・P・マレーディー『自由への熱望』中央出版社，昭和 43（1968）年
- ヨゼフ・ピーパー『キリスト教的人間像について』エンデルレ書店，昭和 43（1968）年
- エスタライヒャー『崩れゆく壁：キリストを発見した七人のユダヤの哲学者』春秋社，昭和 44（1969）年
- ウォルター・M・アボット他『新約聖書の基礎知識』（共訳），春秋社，昭和 48（1973）年

- ヨゼフ・ピーバー『愛について』エンデルレ書店, 昭和 49 (1974) 年
 カール・ラーナー『人間の未来と神学』中央出版社, 昭和 50 (1975) 年
 F・コプルストン『トマス・アクィナス』上智大学, 昭和 50 (1975) 年
 ウォルター・M・アボット他『旧約聖書の基礎知識』春秋社, 昭和 51 (1976) 年
 ヨゼフ・ライネルス『中世初期の普遍問題』創文社, 昭和 58 (1983) 年
 A. フレッチャー他『アレゴリー・シンボル・メタファー』(共訳), 平凡社, 昭和 62 (1987) 年
 フェルナンド・ファン・ステンベルゲン『トマス哲学入門』(共訳), 白水社〈文庫クセジュ〉, 平成 2 (1990) 年
 ピエール・リシエ『聖ベルナル小伝』(共訳), 創文社, 平成 6 (1994) 年
 モーティマー・J・アドラー『天使とわれら』講談社〈講談社学術文庫〉, 平成 9 (1997) 年
 トマス・アクィナス『在るものと本質について』知泉書館, 平成 25 (2013) 年

学術論文 (欧文 抄)

- “Japan, Philosophy and Thomism”, in *The Thomist*, Vol.19, 1955.
 “Thomism in Japan”, in *Proceeding of the American Catholic Philosophical Association*, Vol.37, 1964.
 “Intellectus Agens and the 《Empiricism》 of Thomas Aquinas”, in *The Japanese Society of Medieval Philosophy*, (*Studies in Medieval Thought*, Vol.7), 1965.
 “Thomas Aquinas and the Problem of Universals: A Re-examination”, in *Studies in Philosophy and the History of Philosophy*, Vol.4, The Catholic University of America Press, 1969.
 “Scholastic Studies in Japan”, in *The New Scholasticism*, XLIII, No.2, 1969. reprint in A. Survey, *The Northeast Asia Journal of Theology*, 1971.
 “The Habit of Peace”, in *Unterwegs zum Frieden*, Herder, Freiburg im Breisgau, 1973.
 “The Contemporary Significance of Thomistic Ethics”, in *Atti del Congresso Internazionale*, Edizioni Dominicane Italiane, Napoli, 1977.
 “The Degrees of Knowledge and the Habitus According to Thomas Aquinas”, in *Miscellanea Medievalia* 13-1, Walter de Gruyter, Berlin, 1981.
 “Virtue and Justification – A Consideration on Thomas Aquinas’ Treatise of Virtue”, in *L’homme et son Univers au Moyen Age*, Editions de L’Institut Supérieur de Philosophie, Louvain-la-Neuve, 1986.
 “Some Aspects of Human Rights in Japan”, in *Philosophical Foundations of Human Rights*, ed. P. Ricoeur, UNESCO, Paris, 1986.
 “Economy and Morality – In Search of a New Social Order”, in *Modern Society and Traditional Morality*, Korea University, 1986.
 “Habitus and Natura in Aquinas”, in *Studies in Medieval Philosophy*, ed. J. Wippel,

The Catholic University of America Press, 1987.

“Res and Signum. On the Fundamental Ontological Presupposition of the Philosophy of William Ockham”, in *Philosophie im Mittelalter. Entwicklungslinien und Paradigmen*, Felix Meiner Verlag, Hamburg, 1987.

“The Study of Medieval Philosophy in Japan”, in *Contemporary Philosophy: A new survey*, vol.6/2, 1990

“The Concept of Creation in the Philosophy of Kitaro Nishida”, in *Contemporary Philosophy: A new survey*, vol.7, 1993.

“Christianity and Human Rights: In search of True Political Humanism”, in *Oriental Academic Studies*, Institute of Oriental Philosophy, vol.37/2, 1998.

学術論文 (和文 抄)

昭和 32 (1957) 年

トーマス・アクィナスにおける適合性 (Connaturalitas) による認識『中世思想研究』(中世哲学会) 創刊号

全体の抽象と形相の抽象——トーマス・アクィナス抽象理論の一考察——『哲学雑誌』(東京大学哲学会) 第 73 卷 738 号

安藤昌益と自然法思想『アカデミア』(南山大学出版部) 第 17 号

昭和 35 (1960) 年

トマスにおける倫理的善の観念『中世思想研究』第 3 号

自然法の論理『法哲学年報』(日本法哲学会) 1960 卷『法思考の問題』

昭和 37 (1962) 年

実践的認識についての一考察『法解釈学及び法哲学の諸問題 恒藤教授古稀記念』(有斐閣)

昭和 40 (1965) 年

自然法の認識——トマスの立場についての一解釈——『西洋中世哲学思想』(岩波書店)

昭和 41 (1966) 年

トマス・アクィナスと普遍の問題『哲学雑誌』(東京大学哲学会)『カント哲学の研究』

昭和 42 (1967) 年

トマス・アクィナスにおける「哲学」の問題『中世思想研究』第 9 号

トマス・アクィナスにおける経験主義と形而上学『カトリック神学』(上智大学神学会) 第 11 号

昭和 43 (1968) 年

超越と類比——現代トミズムの問題——『岩波講座・哲学』(岩波書店) 第 2 卷

昭和 44 (1969) 年

認識と存在——トマス存在思想の一解釈——『哲学』(日本哲学会) 第 19 号

- 存在と類比——「経験」の論理としての類比——『中世思想研究』第11号
 昭和45（1970）年
 スコラ学の成立とトミズムをめぐる歴史的諸問題『ヨーロッパ・キリスト教史』（中央出版社）第3巻
- 昭和46（1971）年
 自然法と正義——トマス説の再検討——『中世思想研究』第13号
- 昭和47（1972）年
 ハビトゥスとナトゥラ——トマス・アクィナスのハビトゥス概念についての考察——『中世思想研究』第14号
- 昭和48（1973）年
 習慣と因果性——形而上学的な因果性理論への試論——『思想』（岩波書店）1973年9月号
- 昭和50（1975）年
 日本思想と超越の問題『東洋学術研究』（東洋哲学研究所）第14巻2号
- 昭和51（1976）年
 確実性について——習慣論の立場から——『思想』（岩波書店）1976年3月号
- 昭和52（1977）年
 判断と真理——トマス判断論のアウグスティヌスの源泉に関する一考察——『聖トマス学院論叢』（聖トマス学院）『V. M. プリオット師献呈論文集』
- 昭和53（1978）年
 トマス・アクィナスにおける形而上学と習慣『中世思想研究』第20号
- 昭和55（1980）年
 トマス・アクィナスの transcendentia 論——存在と価値——『中世の哲学者たち』（思索社）
 トマス哲学における存在と意識『科学と存在論』（思索社）
 パースの習慣論——経験主義と形而上学——『思想』（岩波書店）1980年12月号
- 昭和56（1981）年
 正義と真理——正義論の一考察——『現代の法哲学』（有斐閣）
- 昭和58（1983）年
 行為の主体について『行為の構造』（勁草書房）
- 昭和60（1985）年
 「人間の教育」とそのユートピア的構想『新・岩波講座哲学』（岩波書店）12巻
- 昭和61（1986）年
 トマス神学における救いの概念『ボナヴェントゥラ紀要』（東京ボナヴェントゥラ研究所）第3号
 トマスの信仰概念について『日本の神学』（日本基督教学会）第25号
- 昭和62（1987）年

- 中世思想における愛『人間の探究』（名古屋大学出版会）
昭和 63（1988）年
抽象と直観——オッカムにおける知的認識の問題——『中世思想研究』第 30 号
- 平成 1（1989）年
自然法における理性と意志——スアレス自然法理論の再検討——『自然法の復権』（創文社）
- 平成 4（1992）年
経験と神『中世における知と超越——思索の原点をたずねて——』（創文社）
- 平成 5（1993）年
真のレリギオについて『なぜキリスト教か』（創文社）
トマス倫理学における至福『中世思想研究』第 35 号
- 平成 7（1995）年
制度知としてのスコラ学——西洋中世大学とスコラ学の関係をめぐって——
『比較法史研究』（比較法史学会）第 4 号
「学」としての神学『日本の神学』（日本基督教学会）第 34 号
クレルヴォーのベルナルドゥスにおける恩寵と人間的自由『中世思想研究』第 37 号
- 平成 10（1998）年
トマス・アキナスにおける自然理解の一側面——原罪論をめぐって——
『ヨーロッパ中世の自然観』（創文社）
キリスト教と人権——真の政治的ヒューマニズムをめざして——『東洋学術研究』（東洋哲学研究所）第 37 巻 2 号東洋哲学研究所
- 平成 12（2000）年
教養と自由——ベルナルドゥスにおけるキリスト教的ヒューマニズム『教養の源泉をたずねて 古典との対話』（創文社）
中世政治思想から何を学ぶか（シンポジウム 中世哲学と現代——国家と正義）
『中世思想研究』第 42 号
- 平成 13（2001）年
人間の言葉・神の言葉——「聖書言語」の真なる理解に向けて『聖書の言葉・詩歌の言葉』（PHP 研究所）
- 平成 15（2003）年
自由と人格 カント「人格」概念の批判的考察『自由と正義の法理念 三島淑臣教授古稀祝賀』（成文堂）
- 平成 17（2005）年
人間のいのちの尊厳について考える『純心高齢者福祉研究』（純心高齢者福祉研究センター）第 4 号
- 平成 19（2007）年
普遍論争再考『大航海』（新書館）第 62 号

- 平成 20 (2008) 年
『神学大全』(スンマ)の挑戦『中世思想研究』第 50 号
- 平成 22 (2010) 年
「キリストの存在論」試論——*Summa Theologiae*, 3, 16-17『純心人文研究』(長崎純心大学)第 16 号
- 平成 24 (2012) 年
特別講演 トマス・アクィナスの存在論『中世思想研究』第 54 号
天使の存在論(特集 天使たちの中世)『西洋中世研究』(西洋中世学会)第 4 号
- 平成 25 (2013) 年
『神学大全(スンマ)』翻訳から学んだこと(『神学大全』翻訳完成記念特集)『中世思想研究』第 55 号
- 平成 26 (2014) 年
中世におけるリアリズムの転換『生態心理学研究』(日本生態心理学会)第 7 巻 1 号
- 平成 28 (2016) 年
トマス・アクィナスの聖母神学: 試論『日本カトリック神学院紀要』(日本カトリック神学院)第 7 号
- 平成 29 (2017) 年
トマス・アクィナスの「神」認識について『日本カトリック神学院紀要』(日本カトリック神学院)第 8 号

※ その他の学術論文, さらに論説・書評・講演・対談・講義録など多数あり。

なお, 年譜・主要業績の編集にあたり, 片山寛氏より資料を提供いただいた。記して感謝申し上げたい。

(永嶋哲也編)